

佐世保港が国際クルーズの 拠点港に選定されました

1月31日、国土交通省港湾局が募集していた「官民連携による国際クルーズ拠点形成する港湾」に佐世保港が選定されました。国、港湾管理者、クルーズ船社が連携し、全国各地に国際クルーズ拠点を整備する新しい取り組みで、本市は昨年12月、クルーズ船社「カーニバル・コーポレーション&PLC」と連名で申請していました。今回は佐世保港の他、横浜港（横浜市）や八代港（熊本県八代市）など、全国で6港が選定されました。

本市の計画は、整備が進む「三浦地区」に加え、新たに「浦頭地区」においても港を整備するというものです。国が海底土砂のしゅんせつ工事や棧橋を、本市が駐車場や周辺の道路を、カーニバル・コーポレーションが浦頭地区の旅客ターミナルの整備を行います。

佐世保港へのクルーズ船の平成28年の寄港数は64隻でしたが、計画では平成32年に約200隻、36年には約300隻の寄港を見込んでいます。

この計画に関し、国交省からは、①アジアのゲートウェイ（玄関口）として、多くのクルーズ船を受け入れる計画であること②限られた開発空間を有効活用するため、既存の三浦地区の他、浦頭地区を活用することとしていることという点が評価されました。今後は漁協や地元地区自治協議会など、関係の皆さまにご理解とご協力をいただきながら、平成32年の供用開始を目指し、国、市、船社の三者で整備工事を進めていきたいと思えます。

日本有数の国際クルーズ拠点港を目指し、カーニバル・コーポレーションと連携しながら「ASEBO」の魅力の世界へ発信していきたいと思えますので、皆さまのご理解とご支援をよろしく願います。



⑤ 備前と整備課 25・9355

カーニバル・コーポレーション & PLC
世界最大のクルーズ会社で、傘下にコスタ・クルーズやプリンセス・クルーズなどのブランドを有しています。今回の計画で旅客ターミナルを整備するカーニバル・コーポレーションは、浦頭地区の港を優先的に使用する予定で、将来的な目標として、佐世保港へ年間300回の寄港、100万人の観光客の送客を計画されています。
※写真はカーニバルグループのコスタピクトリア号

